



かぜをひくと鼻水が出るのはなぜなの

かぜって何だろう

かぜをひくと、熱が出て、鼻やのどの具合が悪くなったりします。

かぜは一つの病気ではなく、鼻やのど、肺など、呼吸器官のねんまくにおきる、熱、痛み、はれをともなう病気の、すべてを指しています。かぜの元になっているのは、ウイルスや細菌という、目に見えない小さな小さな生き物です。

ウイルスや細菌は、かぜをひいている人の口から出て、空気を伝わって、他の人の体に入ったり、ウイルスや細菌のついたものにさわった人の、手から入ることもあります。

かぜをひくと鼻水が出るのは

鼻の穴のおくのほうの、表面が湿ってぬるぬるとしたねんまくには、血管や神経が集まっており、たいへん、びん感になっています。

かぜのウイルスが鼻のねんまくにつくと、体がいらぬものを取り除こうとしたり、病気をなおそうとするはたらきを始め、その部分がはれて赤くなります。また、鼻の中には、ウイルスを殺すための白血球や、洗い流すための水がたくさん出ます。

そして、ウイルスの死がいや白血球、こわれた鼻の細胞などが、鼻の中に出たたくさんの水とともに、鼻水として出るので、(監修・保志 宏)

